

高梁川流域 キッズ

たかはしがわりゅういき

高梁川流域の

し てい ぶん か ざい し せき

指定文化財(史跡)

はしまかいづか

羽島貝塚

新高総早
見梁社島
市市市町

倉敷市

矢井浅里笠
掛原口庄岡
町市市町市



場所

くらしきしはしま
・倉敷市羽島



時代

じょうもんじだい
・縄文時代



指定年月日

しやうわ
・昭和40(1965)年
3月25日



所有

くらしきし
・倉敷市



し せき

この史跡について

くらしきしがいちなんとうじょうもんじだいかいづか
倉敷市街地の、南東の山のふもとにある縄文時代の貝塚です。

ここに人々が暮らしはじめ、貝塚ができ始めたのは縄文時代の前期です。その後も人々は縄文時代中期・後期にかけてこの地に住み、貝塚も引き続き成長していきました。当時瀬戸内の海は、内陸深くまで入りこんでいました。

いせきいりえすなはまたいしやうじだいいこうすうかいおこな
遺跡は入江をのぞむ砂浜にあったと考えられています。大正時代以降、数回の調査が行われ、土器片や石で作った矢じりなどがみつかっています。

げんざいいせきじどうこうえんうまちゆういふかかんさつ
現在、遺跡は児童公園の地下に埋っています。今でも地面を注意深く観察すると、カキ・ハマグリなどの貝殻を見つけることができます。